




沖縄国際大学 平成 30 年度 FD 支援プログラム成果報告書

下記内容により、FD支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「FD支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	宮城 弘樹 	所属・職名	社会文化学科・講師																		
プログラム名称	新・博物館実習ノートの作成																				
実施及び成果の要旨	<p>主に今回のFDでは学芸員資格科目の「博物館実習」について用いられる『実習録』について新しい『実習ノート』作成に向けての調査及びデザイン変更案を作成しました。</p> <p>沖縄国際大学の博物館実習で使用される『実習録』は25年間ほぼ内容変更が行われずに用いられてきました。この点では完成したものではありますが、その間に博物館法の改正や、沖縄県立博物館の建設、IPM（総合的有害生物管理）の実践など博物館を取り巻く環境も大きく変化しています。より高い学習効果と現代的な博物館運営に即した、旧来の『実習録』から新しい『実習ノート』作りを目的に調査活動を及び、実習ノートデザイン変更案を作成しました。</p> <p>主な変更点</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>・旧版『実習録』</td> <td>・新『実習ノート（案）』</td> </tr> <tr> <td>版形</td> <td>B5</td> <td>A4</td> </tr> <tr> <td>フェイスシート</td> <td>選定理由なし</td> <td>希望館の選定理由を追記（学芸員の要望による）</td> </tr> <tr> <td>実習日誌</td> <td>押印欄なし</td> <td>押印欄を設ける（学芸員の要望による）</td> </tr> <tr> <td>実習担当教員の助言</td> <td>期間中2回</td> <td>期間中1回（学芸員の要望による）</td> </tr> <tr> <td>その他の学習記録</td> <td>見学実習（野線）</td> <td>博物館の見学を写真等添付記録できるように工夫</td> </tr> </table>				・旧版『実習録』	・新『実習ノート（案）』	版形	B5	A4	フェイスシート	選定理由なし	希望館の選定理由を追記（学芸員の要望による）	実習日誌	押印欄なし	押印欄を設ける（学芸員の要望による）	実習担当教員の助言	期間中2回	期間中1回（学芸員の要望による）	その他の学習記録	見学実習（野線）	博物館の見学を写真等添付記録できるように工夫
	・旧版『実習録』	・新『実習ノート（案）』																			
版形	B5	A4																			
フェイスシート	選定理由なし	希望館の選定理由を追記（学芸員の要望による）																			
実習日誌	押印欄なし	押印欄を設ける（学芸員の要望による）																			
実習担当教員の助言	期間中2回	期間中1回（学芸員の要望による）																			
その他の学習記録	見学実習（野線）	博物館の見学を写真等添付記録できるように工夫																			
実施期間	自： 2017 年 4 月 28 日 至： 2018 年 3 月 31 日																				

※共同実施者（2人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	小川 護 	所属・職名	経済学部・教授
申請者氏名	岩橋 梢 	所属・職名	教務部・学務課

目 的	<p>本学では、1992年に文化省から認可をうけ2014年度現在、およそ618名の博物館学芸員資格修了者を社会に送り出しています。学芸員資格科目の授業の一つに「博物館実習」があり、この際に用いられる『実習録』は25年間ほぼ内容変更が行われずに用いられてきました。</p> <p>その間に博物館法の改正や、沖縄県立博物館の建設、IPM（総合的有害生物管理）の実践など博物館を取り巻く環境も大きく変化しています。より高い学習効果と現代的な博物館運営に即した、旧来の『実習録』から新しい『実習ノート』作りを目的に調査活動を行う。</p>
活 動 内 容	<p>4月 打ち合わせ</p> <p>5～9月 実習館学芸員への聞き取り</p> <p>8～2月 『実習録(案)』の作成</p> <p>実習委員会へ本成果を公表（※予定していた博物館実習実施委員会への報告が3月に行えていないため、2018年度の委員会にて報告予定する）承認を得て、2019年度から『実習ノート』を用いた実習に移行させたい。</p>
成果・結果・効果	<p>新『実習ノート』は実習学生及び実習受け入れ館の学芸員とともに、前『実習録』を改定したものである。両者にとって本ノートが利便性の高いものとして利用されることで、より効果的な学習になることが期待される。</p> <p>また、前『実習録』が特定の印刷会社による少部数の生産発注のため、1冊あたりの単価が高額となっていたが、本ノート作成にあたり、デジタルデータを作成した。これによって、オンデマンド印刷で入札可能で、1冊あたりの単価を下げることが可能である。</p> <p>また、受け入れ館においては本データを事前に提供することで、所定様式にプリントアウト可能となり、ノートへの貼り付けを容易に行うことができる。これは、PCやデジタルカメラの普及による手書きからデジタル時代に対応した、実習館の担当学芸員にとっても利便性の高いものとなるものと推量される。</p>
今 後 の 展 望	<p>新『実習ノート』への移行は博物館実習委員会の承認を得て行う予定である。旧『実習録』が25年の間利用されてきたことが示すとおり。これ自体完成度の高いものであるが、パソコンの普及、ノートへの写真添付、押印欄の追加や担当学芸員の希望など踏まえて、新『実習ノート』では、効果的な学習を促すための工夫を行った。</p> <p>新『実習ノート』が、学習を促す新しいツールとして用いられるとともに、受入館にもより使いやすいノートが制作されることで、博物館学芸員教育の質の向上が期待される。</p>